

保健師職能委員長あいさつ

佐藤 かおり (名古屋市総務局職員部)

国内最初の新型コロナウイルス感染者が報告されてから3年が経過した今日、まだまだ続くこの状況に疲弊している方も多いと思いますが、後遺症やメンタルヘルスへの影響も気になるところです。行動制限のない中でのコロナ感染予防対策や、感染症法上の「5類」への引き下げ等、今後の動きも注視していかなければなりません。

看護協会保健師職能委員会は、保健師の役割や求められる能力、現任教育等の課題に研修等の企画・運営を通じて取り組んでいます。新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、様々な保健活動や事業が中止や延期となり、この先どのように再開していけばよいのだろうか、人材育成はこれでよいのだろうか等の不安がある中、令和4年度はそれらに答えられるよう実施しました。

研修会では、保健師活動の原点である「地域診断」を取り上げ、地域の基本的なデータの活用法や地域診断を保健医療福祉の課題分析・保健事業の評価等へ活用する方法を学びました。また、交流会では、職場のメンタルヘルス対策として休職者への対応を取り上げて、久々に集合形式で盛り上がりました。

このたび愛知県看護協会新会館建設に向けた第一段階工事が始まりました。

保健師職能委員会には、保健師の協会会員仲間を増やすというミッションがあります。新会館が完成した折には多くの保健師が気軽に集い、学び、交流し、活用できるようになりますので、是非保健師会員の仲間を増やして盛り上げていきたいと思っております。今後ともご協力をよろしくお願いいたします。

～木を見て



森を見る～



～虫の目



鳥の目



魚の目



～

【保健師職能委員会研修会報告】

「地域診断のポイント～地域のデータを活用した保健活動からの地域づくり～」

講師 日本福祉大学 健康社会研究センター主任研究員 渡邊 良太

令和4年9月3日(土) 13:00～16:00 11名

なぜ地域づくりや地域診断が必要なのかという原点から始まり、厚生労働省の地域包括ケア「見える化」システムや日本老年学的評価研究(JAGES)が開発した地域診断ツール等を紹介・解説いただいた。具体的には、JAGES調査項目から見えてくる課題をどのように事業等に結びつけ、どう活用していったかを豊富な事例と共に学ぶことができた。質疑応答も大変活発に行われ、保健師活動に活かせる！と元気が出てきました。

【保健師職能委員会研修会報告】

あなたの職場のメンタルヘルス対策～休職者への対応～

講師 塚田産業保健師事務所代表 塚田 月美

令和4年11月5日(土) 13:30～16:00 13名



どこの職場にもある「メンタルヘルス不調者対策」について、働く職場という組織における「就業規則や休職制度」「労働契約」など普段あまり意識しない「組織のルール」について解説を頂きました。また、メンタルヘルス不調に関しては病名や症状など「疾病性」に目を向けがちであるが、業務上どのような問題が起きているかという客観的事実「事例性」を確認し、会社は原則的に事例性に基づいて就業の可否判断を行い、疾病性については、療養の必要性の判断にのみ限局するという事が大切である事、復職判断の際は労働契約に基づく完全な労務提供ができる場合に復職可とし、回復不十分な状態では休む事が大原則というお話には参加者の多くが頷き、会社人事担当者と共有したいとの感想が聞かれました。講話の最後には、様々な特性をもつ労働者に対する合理的配慮事例の紹介もあり大変興味深い学びの機会となりました。

【交流会】

講話に引き続き、塚田先生、13人の参加者と保健師職能委員全員で自己紹介と一言。「職場内に保健師職が一人きりで困りごとを相談・共有できる人がいない」という共通の課題が、地域行政、産業保健、開業保健師など職域の垣根を超えた出会いと交流の良い機会になりました。

【参加者の声】

- ・合理的配慮の奥深さと、多くあるメンタルヘルス等の不調者に対する対応について考えていく必要性と多職種と連携していくことの大変さを改めて感じた。
- ・行政と企業の保健師の交流の場の一つとして良い機会であると思いました。
- ・部門は違うが皆さんそれぞれ悩みがあり、一人で抱え込まないように、地域などへの相談などできるとわかっただけでもすごく心が楽になりました。

【保健師職能委員会活動報告】

産後うつ等母子支援にかかる産科医療機関と自治体の連携状況調査

【時期】 令和4年1月7日～(医療機関) 1月28日 (自治体) 2月16日

【対象機関】 県内の分娩を取り扱う全医療機関 147 箇所 回答機関 57 箇所 (回収率 38.8%)

県内 54 自治体の市・区保健センター 69 箇所 回答機関 29 箇所 (回収率 42.2%)

【項目】 連絡件数、支援結果返信件数、EPDS※の実施時期、自治体への連絡理由、自治体による支援方法、連絡会議の有無、連携上の工夫等

【結果及び評価】

- ・ EPDS を活用し支援が必要と判断した事例を医療機関から地域へ繋いでいる。
- ・ 出生前のハイリスク妊婦の時点から医療機関と自治体が連携し母親支援を実施している。出生率は県内市町村で格差があり、分娩機関も地域による偏在化が進んできている。母子保健サービスの実施主体は各市町村、分娩機関での支援は各施設によるものであることから、県内における母子支援サービスに格差が生じることのないよう医療機関と自治体間で、そして、看護職間で連携を取ることは必要である。所属機関を越えて看護職が集うことができる看護協会の役割は大きい。

※EPDS：エジンバラ産後うつ質問票

NEW

愛知県看護協会新会館のお知らせ

NEW

愛知県看護協会の現会館は、築 35 年で老朽化や研修室の不足等のため、現在の昭和区から北区大曾根に令和 7 年 2 月に竣工、移転の予定です。

新会館のコンセプトは「e-AICHI (いいあいち)」です。「出会うや学びを通し、全ての看護職が感動を分かち合い、チャレンジ精神を持って、自らの人間性を高め、県民の健康と幸福に繋がる看護の心を発信する場所」を目指したいという思いを込めています。

新会館では、文献検索サービス、図書郵送による貸し出し、会議室の貸し出し等、会員サービスの充実も検討しています。保健師の皆さまにも、より身近な場所としてご利用いただける施設になると思います。

愛知県看護協会だよりでは、シリーズで新会館建設のご案内をしていますので、そちらもぜひご覧ください。



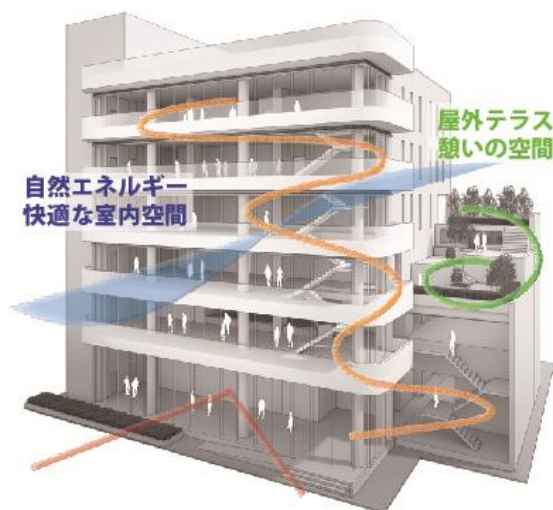
外観パース



地下鉄名城線「大曾根」駅から徒歩 2 分

JR 中央線、名鉄瀬戸線「大曾根」駅から徒歩 5 分

縦の動線 コミュニケーションの空間



情報発信 地域との繋がり空間



令和5年度 会員入会を受付けております。

愛知県看護協会は、看護職の職能団体です。

会員数は 40,501名 そのうち保健師の会員数は579名（令和4年12月31日現在）

※私たちは真摯にお聴きします！入会をためらう方々の声を。ご協力いただき感謝申し上げます！

入会をためらう方々の声

- ・会費が高いと感じる。
- ・研修など日程が合わず、行ったことがない。
- ・地域包括の職場では、個人で入会する気持ちにはなれない。
- ・そもそも情報が来ない。 etc.

受講料無料の交流会等があります。

まずはご参加いただいて実感下さい。

オンラインやオンデマンドの活用を。

情報交換・意見交換の場に！

保健活動におけるネットワーク強化。

ネットワークの豊かさは

「地域の豊かさ」につながる！！

ホームページも是非ご覧ください。

予告！！令和5年度研修会・交流会のお知らせ

R.5.9.9(土)午後 研修会 テーマ「災害時における医療的ケア児者の支援を考える」
講師：にじいろのいえ理事長 水野美穂子医師

R.5.11.未定(土)午後 交流会 テーマ「少数配置の保健師集まれ！仲間をつくろう」

～ 看護職賠償責任保険制度 ～

日本国内の行政や事業所で保健師が行う業務によって、他人の身体や財産に損害を与えたり、人格権を侵害したため、法律上負担しなければならない損害賠償責任を保証します。保障は法律上の損害賠償金その他、弁護士報酬等の争訟費用も補償します。こんな時のために・・・

○訪問先で、うっかり物を破損してしまった

○相談者との面接で、名誉を傷つけられたと訴えられた

○運動指導で、参加者が転倒しけがをした

日本看護協会会員だけが加入できる保険制度。詳しくは看護協会へお問い合わせください。

<愛知県保健師職能委員>

佐藤かおり、半田裕子、早川明子、伊藤博美、大谷あい子、桑原三佳

<担当理事>

幾田純代

★編集後記★

コロナ対応も新たなステージになります。次の健康課題は何か、またコロナで後回しにしていた課題は何か等々、情報を更新しながら研修や交流会を実施していきます。看護協会新会館につきましては建設の進捗状況をいろいろな媒体を通じて発信しておりますので是非ご覧下さい。

本情報誌作成にあたりご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

大谷 半田